

(様式1)

|     |               |      |     |     |              |
|-----|---------------|------|-----|-----|--------------|
| 校 種 | 小・中<br>どちらかに○ | 学校番号 | 4 6 | 学校名 | 宇都宮市立姿川第二小学校 |
|-----|---------------|------|-----|-----|--------------|

## 令和5年度 学校経営計画

### 1 教育目標

#### (1) 基本目標

・心身ともに健康で、知的好奇心と思いやりにあふれる豊かな心をもち、社会の変化に対応してたくましく成長し続けることができる児童を育成する。

#### (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ・健康で何事にもくじけずたくましくやりぬく子ども（がんばる子）
- ・工夫と努力によって自ら学び続ける子ども（工夫する子）
- ・思いやりがあり、友達と仲良く助け合う子ども（やさしい子）

### 2 学校経営の理念

・子どもは地域の宝であり、子どもたちの健やかな成長は地域全体の願いである。私たち教職員は保護者や地域と共通の目標をもち、子どもたちが夢を抱き未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく、使命感をもち、全力で教育にあたっていく。子どもたち一人一人がより豊かで充実した学校生活を送り、よりよい生き方を目指すことができるよう、地域に根差した特色ある学校教育を推進し、知・徳・体のバランスの取れた力の向上を目指す。

### 3 学校経営の方針

[宮の原地域学校園教育ビジョン]

心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～

・児童一人一人が人生を切り拓きたくましく成長し続けられるよう、知・徳・体のバランスの取れた力を育成する教育を実践するとともに、教職員・保護者・地域の力を結集し、協力して本校教育の充実を図る。

#### (1) 学業指導の充実

各種調査を分析し、基礎・基本の定着や読解力・表現力の育成を基盤に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開し、児童が学び合える活動等を工夫し、学級を学びに向かう集団に成長させていく。

#### (2) 心の教育・学級経営の充実

道徳科を核にした心の教育や認め励ます教育をさらに充実させ、思いやり、たくましさ自信や自己有用感などを育み、児童が互いに認め合い励ましあえる一人一人の居場所となる温かい学級づくりを推進する。

#### (3) 体力の向上・健康の増進

教科体育の充実、外遊びの奨励等を通して体力の向上を図る。感染症予防や望ましい食習慣、生活習慣の改善などを正しく理解し健康を維持・管理する能力、及び自らの命を守り抜くために危機を回避する能力を育成する。

#### (4) 地域に根差した活気ある学校づくりの推進

児童の主体的な活動を認め支援するとともに、地域の教育資源と地域人材のさらなる開発と活用の工夫を図る。

(5) 社会の変化に対応する力の育成

英語教育、プログラミング教育、宇都宮学など、ICT を効果的に活用しながら新たに求められる教育活動を適切に展開するとともに、SDG s に係る現代的な諸課題に対応し持続可能な社会づくりに向けた意識の涵養に努める。

(6) 教職員の資質の向上

キャリアや教職員のよさを生かした協働的運営の推進と学校業務の焦点化を図るとともに、一人一人が自覚と使命感をもって絶えず研究と修養に努め、時代の要請に即応する教育の実践を目指す。

(7) 学校における働き方改革の視点

学校行事の見直しなど業務を精選するとともに勤務時間を意識した働き方を推進し、地域の人材を教育活動に取り入れるなどの工夫を行う。

#### 4 教育課程編成の方針

- (1) 本校の教育目標を達成するために必要な教育の内容を、教科横断的視点で組織的に配列する。教育内容と人的・物的資源を効果的に組み合わせ、本校の特色を生かした教育課程を編成する。
- (2) 本年度の重点課題の解決を図る教育課程を編成する。学校経営の方針を柱に、児童一人一人がのびのびとたくましく成長し、安心して学び合える温かな教育課程を目指す。
- (3) 読解力・表現力を育成するため、国語科で培った資質・能力が他教科・領域でも活用できるよう単元配置の工夫や図書館教育との関連、教科横断的な指導を研究・実践していく。
- (4) いじめ・不登校の未然防止を目指し、楽しく活気ある学校、居心地のよい学級づくりを目指す。縦割り班活動や児童会行事等を適切に配置するとともに、時間割の工夫、教科担任制の実施などを通して学年全体を把握できる体制を構築する。
- (5) 気力・体力を増進させ危険を回避する能力を育むため、日々の食育を基盤として・サーキットトレーニング・朝の一分間体操・うつのみや版ミニマム及び各種検定・「一日一回外遊び」などの継続、様々な状況に応じた避難訓練や交通安全教室等の実施を推進する。
- (6) 持続可能な社会づくりに参画できる児童の育成を目指し、SDGs の取組を教育活動に取り入れ、環境・人権・国際理解教育をはじめとして横断的なカリキュラムの編成を工夫する。
- (7) 地域の社会・文化的環境、自然環境等を生かした特色ある教育を編成する。特に隣接する高齢者福祉施設との交流、鶴田沼の活用等を工夫する。
- (8) プログラミング教育やGIGAスクール構想、デジタル・シティズンシップ教育に伴うICTの活用、宇都宮学、外国語など、時代の要請に応じた学習の確実な実施を図るとともに、すべての学習の基礎となる読書活動を着実に推進していく。
- (9) 日課を工夫し、児童と向き合う時間や教職員の資質向上を図る時間などを確保する。
- (10) 教育課程の実施にあたっては、実施状況の把握・管理に努めるとともに、評価を通して改善・充実に努める。
- (11) 児童が確かな学力を身に付け中学校生活への不安解消を目指すために、地域学校園内の学校との連携に配慮して小中一貫教育を推進し、計画的に地域学校園あいさつ運動等を行う。

#### 5 今年度の重点（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

児童も教職員も、自分のよさを発揮しながら生き生きと活躍できる学校づくりを推進する

○「ほめてのばす教育」の実践

○あいさつの響く学校づくりの推進

・楽しい授業と居心地のよい温かな学級づくりの推進

・教職員のよさと専門性を生かした、教科担任制や校務分掌

- ・業務の適正化
- ・時間を意識した効率的な業務の遂行

(2) 学習指導

**読解力・表現力の育成を基盤に、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」を活用した授業を展開する**

- 学業指導の充実（「宇都宮モデル」各過程の指導の質的向上を図る）
- 各教科の基礎・基本の確実な定着と学習規律の確立
  - ・読解力・表現力の育成
  - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
  - ・ICTの積極的な活用
  - ・読書指導の推進
- 家庭学習の習慣化

(3) 児童生徒指導

**心の教育を充実させ、思いやり、たくましさ、自信や自己有用感などを育むとともに、認め励ます教育を推進する**

- 「気づく・考える・行動する」児童の育成
  - ・「あいさつ・姿勢・清掃」
- 規範意識の醸成
  - ・主体性を育む縦割り班活動や異学年交流、豊かな感性を育む体験活動の充実
  - ・道徳科を核とした心の教育の推進
  - ・自信や自己有用感を育む学年・学級経営の工夫

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

**体力の向上・健康の増進を図るとともに、自分の健康や安全に関心をもち、心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する**

- 望ましい生活習慣・食習慣の形成
  - ・外遊びの奨励「一日一回外遊び」
- 教科体育を核とした基礎体力の向上
  - ・感染症について正しい知識を身に付け、健康を大切に管理しようとする態度の育成
  - ・危険を予測し、自らの命を守り抜くための判断力・行動力の育成

(5) 学校における働き方改革の視点

- ・学校行事・学年行事の見直し
- ・校務分掌における業務の適正化
- ・教科担任制の推進

## 6 学習指導，児童生徒指導，健康（保険・安全・食育）・体育に関する取り組み

※年度始めの諸計画等（様式2～4）参照

## 7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

- ・望ましい人間関係，他者と関わる力の育成
- ・地域を知り，地域を愛する心の醸成
- ・読解力・表現力の育成（自分の考えを分かりやすく表現できる児童の育成）

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

- ・あいさつ運動の推進
- ・縦割り班（異学年交流）活動の推進

- ・学習支援における地域人材の活用
- ◇鶴田沼をはじめ、地域の自然や歴史遺産を活用した学習の推進
- ◇福祉施設、幼稚園・保育園等との交流
- ・図書館教育の充実と読書活動の推進
- ・すべての教科・領域における読む活動
- ・書く活動の積極的導入
- ・ICTの積極的な活用
- ・A L Tを積極的に活用した英語教育の推進

## 8 本市の重点施策・事業との関連

- (1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）
  - ①基本的考え
 

地域ぐるみで児童を育てるという観点から、地域の教育資源のさらなる活用を図るとともに地域の願いを学校運営に生かす。
  - ②主な取組
    - ・地域の教育資源の活用や交流、人材の掘り起こしとその活用などを推進する。
    - ・学校運営の在り方や児童の実態、支援等について、地域協議会や姿川北部地区振興会と情報共有や意見交換を行う。
    - ・学校だより、ホームページ等を活用し、地域への積極的な発信をしていく。地域探検や地域の行事など、児童が地域で活躍する場を工夫していく。
- (2) 小中一貫教育・地域学校園
  - ①基本的考え
 

児童が9年間充実した学校生活を送れるようにするために、小中の教職員が連携して教育に当たる。
  - ②主な取組
    - ・学習指導、児童生徒指導に関する情報共有と連携、交流の工夫を行う。
    - ・各部会、分科会からの提案を確実に実践し成果を蓄積する。
    - ・情報交換・共有を進め、不登校・問題行動等の未然防止を図る。
- (3) 不登校対策
  - ①基本的考え
 

不登校の未然防止・早期対応を図るため、姿二小「不登校対策マニュアル」を活用し組織的に取り組む。
  - ②主な取組
    - ・一人一人のよさと可能性を認め励ます指導により、自己有用感を育成する。
    - ・楽しい学校、分かる授業、居心地のよい温かな学級づくりを推進する。
    - ・教育相談、Q - U、いじめアンケート等、児童の心の状態を把握する機会を充実させるとともに研修などを活用して教師の対応力を強化する。
    - ・学校・学年だより、学級懇談会等を活用し、学校の考えや取組について発信していく。
    - ・親学講座、学校だより、PTAとの連携等により、家庭教育の充実等に関する啓発と連携を強化していく。
    - ・必要に応じて別室登校、放課後登校、外部機関との連携など、児童の実態に応じた多様な登校の仕方を取り入れていく。
    - ・S Cの活用による要因分析とケース会議や職員会議、児童指導部会などにおける全職員の情報共有、関係機関（教育センター・子ども家庭支援室・各大学学生ボランティア）との連携
    - ・欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報の十分な引継ぎ
- (4) G I G Aスクール構想
  - ①基本的考え
 

全児童、教職員が末端を文具として授業や家庭学習で活用できるようにするために、教科・領域で活用場面を設定し積極的に活用する。社会に出たときに、主体的に判断してICT機器を活用できるようにするため、デジタル・シティズンシップ教育の観点を各教科・領域の年間指導計画に位置付ける。

## ②主な取組

- ・各学年で成長段階に合わせて教科・領域で活用場面を設定する。
- ・ICT 支援員から効果的な活用方法について研修するとともに、教職員も積極的に ICT を取り入れた授業を行う。
- ・ICT リテラシーを基に、学年ごとに身に付けさせたい力の意育成を図る。
- ・家庭学習での ICT の活用を図る。
- ・「宇都宮市情報モラル教育年間指導計画」を活用し、情報モラル教育を実施する。

## (5) 宇都宮学

### ①基本的考え

「宇都宮学」を通して、宇都宮の自然や歴史、産業、伝統文化について理解することで、宇都宮のよさや特徴に気づき、地域や郷土への愛情や誇りに思う態度を養うとともに、地域や郷土の未来について主体的に考えていこうとする態度を養う。

### ②主な取組

- ・児童が「宇都宮学」を通して得た知恵や工夫を生活に活かせるようにする。
- ・「宇都宮学」で得た知識を活用して、宇都宮の将来に向けて考えたり話合いの場を設けたりするなど、主体的・対話的で深い学びにつながるよう授業の構成を工夫する。
- ・「宇都宮学」の学習前後に実際の場所を訪れたり ICT を活用して事前研究をしたり、主体的に探求活動をすることができるよう、他教科の授業や各種行事、家庭との連携を図る。

